

第4回 第2次福井市都市交通戦略協議会

会議録（要約）

開催日時 令和3年2月8日（月） 14時30分から15時20分まで

開催場所 アオッサ6階 研修室601ABC

1. 開会、あいさつ

2. 議事

○会長

本日もよろしくお願ひする。今回が最終回ということで、内容は事前に送付してあるので、後ほど皆さんから一言ずつお願ひしたいと思う。それでは、次第にしたがって、「第2次福井市都市交通戦略(案)の報告」ということで、事務局から説明をお願ひする。

○事務局

説明【第2次福井市都市交通戦略(案)の報告】(省略)

○会長

どうもありがとうございました。説明していただいた最終案は、これまでの意見を踏まえてまとめられたものである。最後の会ということで、皆さんから一言ずつ、感想や今後への期待等を含めて意見をいただきたい。それでは順番にお願ひする。

○委員

大きな話であるので難しいが、P3にあるように人口が減少していく中で、なかなか計画通りには進まないのではないかと思う。もう一つ、今年は3年ぶりの大雪になり、我々自治会連合会も市の道路課と除雪についての協議を進めた。電車もバスも全部止まったが、降雪時の交通ネットワークの確保は大変難しい。北陸地方は雪が降ることが分かっているのにもかかわらず、交通障害や休校という事態になっている。もう少し雪に強いという視点での取組みが入ると良いと思った。

○委員

福井県の並行在来線のことについて伺いたい。石川県境から敦賀駅までとなっているが、駅はいくつになるのか。

○委員

福井県内は牛ノ谷から敦賀までの18駅である。開業時点ではそのまま今の駅を引き継ぐということを考えている。

○委員

高校生が公共交通機関を利用するのは通学、帰宅時であり、朝夕の通勤ラッシュ時に重なる。公共交通機関の乗り継ぎ、並行在来線への対応など、3年、5年、10年という視野の中で、対応していただけるようになると良いと思っている。予定していた乗り継ぎバスが出て行ってしまったということにならないように、また、各駅での駐輪場対策も考えていただきたい。福井市には会社も学校も多く、私立高校で言えば県内6校のうち5校が福井市にある。私立校の定員は公立校の定員を上回っている。それくらいに私立校が多いが、公立校も8校あり、福井市民だけでなく多くの高校生が福井市に集まっている。そういったことをダイヤ編成なりに組み込んでいただきたい。人口減少ということもあると思うが、多くの移動の確保に向けて期待している。

○委員

この計画に位置付けられた事業を確実に実施していくことが1番だと思う。感想めいたことになるが、私の会社の若手社員はほとんど自動車通勤であるが、今年の大雪時には公共交通に乗り換えて通勤したという人が多くいて、中には福井に帰ってきてはじめて公共交通を利用したという人もいた。ネガティブなきっかけではあったが、何かを契機として公共交通に転換するという経験が出来てよかったと思う一方、多くの転換者があったので、えちぜん鉄道や福井鉄道では積み残しの問題もあったように聞いているが、ケースバイケースで乗り換える意識が定着してきたことは良いと思う。多様な世代が、公共交通も選択し移動するという行動パターンができてくると良い。

○委員

この計画は、自家用車に頼っている暮らしを公共交通に向かわせようという計画であるが、一足飛びに公共交通へということにはならない。まずはインセンティブというか、経済的メリットや時間的な利便性であるとか、そのあたりを考えていく必要がある。

○委員

交通というのは地域の活性化に寄与するので、こういうことを進めて行っていただきたいと思う。それと、先程から大雪の話題が出ているので、この場を借りて道路管理者として一言言わせていただきたい。今年は大変迷惑をかけて申し訳なかった。今後、原因を追究して素早い対応ができるようにしていきたい。

○委員

策定に当たっては上位計画としての総合計画や都市計画マスタープランと整合を図っていると思うが、その他にこれに関連して見直しが必要な計画もあると思うので、施策や事業に向けてそれらと調整を進めて行っていただきたい。また、令和12年を目標としているが、途中での検証も必要になると思うので、そのあたりにも配慮していただきたい。

○委員

福井市が策定した計画であるが、県としても関係することが数多くあると思うので、連携してやっていきたい。

○委員

この計画をどう実施していくか、福井市、福井県だけではなく、関係機関が自分のこととして実施していく必要があり、ある意味ここがスタートだと思う。

○委員

並行在来線開業後は8億円程度の初年度赤字が見込まれるなど経営が非常に厳しい。今回、計画の中でパーク&ライド駐車場の整備や利用促進についても書かれており、我々としてもありがたい。今後、福井市と協力して並行在来線の利用増進に努めていきたい。

○委員

新幹線の福井開業を機に、観光客にもやさしい公共交通機関になることを期待している。

○委員

この計画に基づいて、関係機関と連携しながら具体的な施策を進めていけるように、協力をお願いしたい。

○委員

今、中心市街地の再開発事業が進んで、都心にいろんな機能が集積し始めており、新幹線開業に向けたにぎわいづくりを、地元と一緒に取り組んでいるところであるが、人と物、情報が集まる状況になりつつある中で、今回、公共交通の考え方を整理したということで良い方向に向かうようになったと思う。そのような動きが出てきた中で、戦略として出来上がったものに加えて、臨機応変に対応できる体制づくりが必要だと思う。

○委員

今年は大雪のため、清明循環線や麻生津循環線、福井駅から田原町間が運休となった。市民の足である路線バス、コミュニティバスの運行を確保するため、除雪を一層よろしくお願いしたい。

○委員

今回の見直しで、バスについてはフィーダー交通の部分で、利便性の向上に取り組んでいく。郊外についてはこのフィーダー交通を中心に動いていくが、市内バスについても市街地活性化ということで見直しや対策をしていくということになるため、福井市には市民に必要な市内交通網を維持できるように協力をお願いしたい。

○委員

いろんな施策を関係者と連携して進めさせていただいている。今後とも皆様の更なる協力をお願いしたい。

○委員

これからが重要だと思うとともに、福井市の公共交通に対する思いを強く感じるのので、事業者としても連携してやっていかなければならないと思う。今後の進行管理の中でも、いろいろとあると思うので、今後も引き続きよろしくお願いしたい。

○委員

1月の大雪の際には特急等運休して申し訳なかった。また、2月1日からはコロナ禍の影響でサ

ンダーバードの一部運転取りやめをしております迷惑をかけている。都市交通戦略については、弊社としても、北陸新幹線や並行在来線の対応もあり、公共交通として皆様と連携してやっていきたいと思うので引き続きよろしくお願ひしたい。

○委員

大変良い戦略が出来上がったと思う。今後は計画の実施に向けて、我々が協力していくことが重要だと思う。今回の計画の全域交通ネットワークで一定の利便性を享受できるようになると期待しているが、公共交通の利便性の向上によって都市の構造を変えて行くためには、今後、PDCAのサイクルが重要になると思う。また、最近ではコロナの影響もあってデリバリーが非常に増加しているなど、人の動きが物の動きに代わっているということも聞く。そのような社会の潮流を見極めながら、見直していくことも必要だと考えている。大学としても計画の見直しをする上で助けとなる根拠を科学的に示すという形で協力していきたい。

○副会長

従来の交通戦略というのは、需要者のニーズにどう対応していくかというように、需要側の視点で戦略が立てられていたと思うが、今回の計画が従来のものと違うのは、交通事業者等供給側の問題ということも新たに出てきて、需要だけではなく供給サイド、事業者側の視点も重要になってきているということである。そういう意味で、供給サイドの、地域の交通資源をどのように活用しながら公共交通にしていくのか、そういった視点も入っていると思う。また、コロナの問題もあって、社会がどのように動いていくか、まだまだ不透明であるが、社会の動きに対応して、速度を上げて対応していく必要がある。新幹線開業を考えると、国内からだけではなく、海外からも客が来るため、早く対応すべきである。ハード面の整備が難しいとしても、ソフト面の施策もあると思うので、そのような観点を持ちながら取り組んでいくことが必要と思う。

○会長

皆さんから意見をいただいた。

今回は第2次ということで最初の都市交通戦略をベースにしながら、これまでやってきたこと、今後すべきことの整理の中で、皆さんから意見をいただきまとめてきたが、基本的に大きな骨格は変えず、熟成させて、持続可能なものにしていくというのが大きなテーマになっていたと思う。コロナ禍、人口減少、高齢化等の状況の中で、量については劇的な増加は見込めないと言いつつも、コンパクトなまちを造っていく上では、単に人を運ぶという役割以外に公共交通の新たな役割が価値づけされていくと思う。そのために事業者の方や市民の方が参加し、しっかりとしたネットワークをつくっていくことが重要である。また、質については、必要性や満足度など、きめ細かに考えていくことが大切であると思う。事情の違う個人の要望に対応するには限界があるが、行政がすることや地域としてサポートすること等、役割分担を含めて議論していくことが必要だと思う。今回の計画はボリュームがあるが、皆さんの立場でそれぞれ伝えていただきたい。

また、パブコメをしたが意見はなかったということであるが残念である。良いにしても悪いにしても何かの反応がほしい。今回の計画に限ったことではないが、今後、検討してほしいと思う。

今日は、最終確認の場であるので、これはということがあれば発言をお願いしたい。

○副会長

一つだけ、P61の数値目標について、交通分担率を2030年で25%を目標にしているが、元にな

るデータが10年毎の国勢調査であるので、2030年の調査結果が発表された後にならないと、目標が達成されたかどうか分からない。何か代替りのもの、例えば、公共交通の利用率の何か実際の数値が出てくるものがあればそれでチェックするというようにならないのか。

○事務局

交通分担率については国勢調査の大規模調査で10年ごとにしか出てこないが、その間の年についても把握できるよう、今回は、通勤・通学という形で分担率を記載している。通勤・通学に公共交通を利用している数値については、交通事業者の皆さまからもデータをいただいて、経年的に分かるようにしていきたい。

○事務局

皆さん、ご意見ありがとうございました。計画を作ってもそれを実行していくことが大事だと思っている。これから10年間、事業プログラムを実行していくにあたり、できることから、小さいところからということになるかもしれないが、着実に取り組んでいきたいと思うので協力をお願いしたい。

○会長

よろしいでしょうか。特に意見はないようなので、これで第2次福井市都市交通戦略(案)としてまとめさせていただきたい。それでは、今後の予定について事務局から願います。

○事務局

本日まとまった案については、福井市の政策決定の中で最終的に計画として策定していく。なお、今後、本戦略の国への認定申請を行うことになるが、国との調整の中で修正があった場合には、会長に一任させていただきたいと思うのでよろしくお願いします。

○会長

今あったように、これは案ということで、これから最終確認していくが、その中で文言等修正が出てくる可能性があるが、私の方で最終確認させていただくということでよろしいか。

(異議なし)

ありがとうございます。では、そのように対応させていただく。

それでは、以上をもって議事を終了する。本年度は4回にわたって貴重な意見をいただきありがとうございました。先程から皆さんおっしゃっていたように、これから施策をどう実行していくかというところが肝であり、引き続き協力をお願いしたい。

○事務局

会長、ありがとうございました。以上で、第4回の第2次福井市都市交通戦略協議会を終了する。なお、第3回の協議会で説明したように、来年度、福井駅周辺地区交通戦略を策定する。これは今般の第2次福井市都市交通戦略の一部として位置づけられるものであり、来年度半ばを目途にして本協議会に諮る機会を設けるので、その際には委員の皆さまにはご協力をお願いしたい。

3. 閉会

○事務局

【都市戦略部長あいさつ】(省略)

○事務局

以上で、第4回第2次福井市都市交通戦略協議会を終了する。

ありがとうございました。

以上